

モモの秋季剪定の留意点

平成26年8月
果樹技術普及センター

樹勢が特に旺盛な樹では、徒長枝などにより樹冠内部が暗くなり、枝の充実不良や樹形の乱れ等が起きやすい。そのため、樹勢抑制や枝の充実を良好にするために秋季剪定を実施する。

1. 秋季剪定の利点

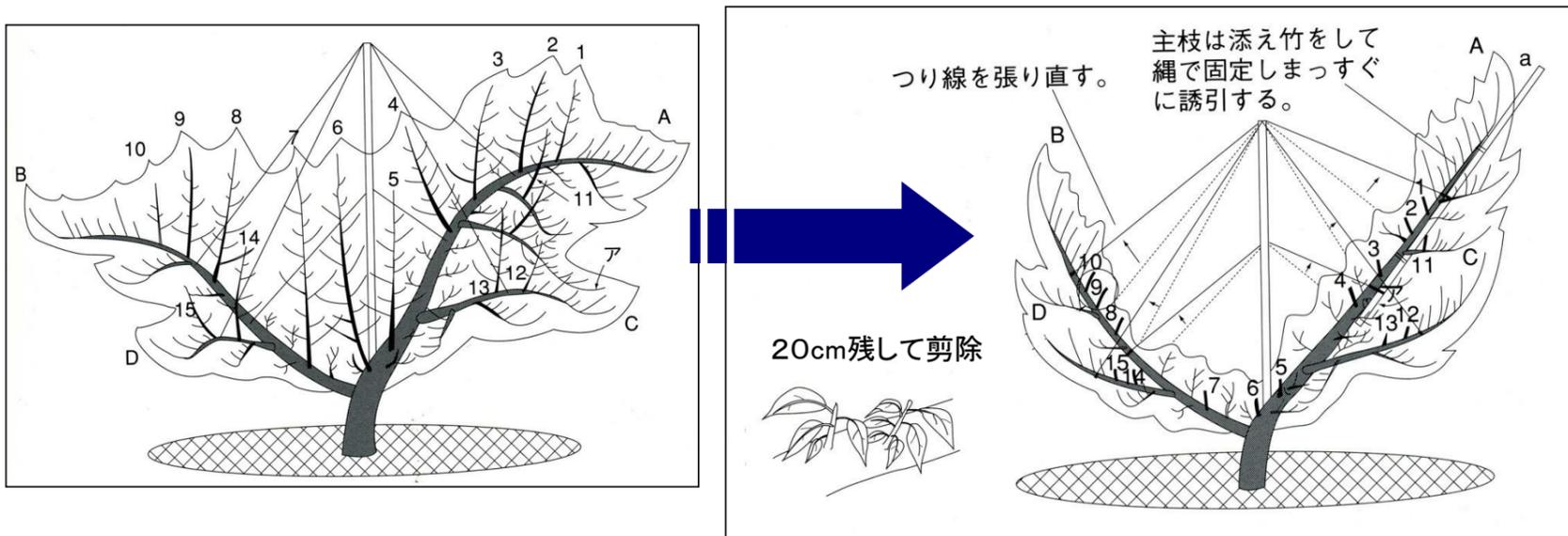
- ①樹冠内部への日当たりが良好となるため、翌年の結果枝の充実が良くなる。
- ②翌年の徒長枝の発生が少なくなり、新梢管理が省力化できる。
- ③冬季剪定に比べて切り口が小さいため切り口の癒合が良く、枯れ込みが少ない。
- ④枝がやわらかいため、思い切った誘引ができるとともに簡単に剪定ができる。
- ⑤葉があるため、樹冠下の明るさを確認しながら適正な誘引や剪定ができる。
- ⑥剪定時間は、誘引を含めて、1樹当たり1人で30分程度である。

2. 秋季剪定の留意点と作業手順

- ①秋季剪定の前に、密植状況を確認し、まず縮伐・間伐を実施する。
- ②徒長枝の発生が少なく、樹勢の低下した樹では、生育期に葉の量が減ることにより、さらに樹勢低下を招くため、秋季剪定は控える。
- ③基葉が落葉していたり、ダニ類等の病害虫の発生が見られる場合には、秋季剪定を行うと樹勢低下を招くため、注意する。
- ④秋季剪定の実施時期は、二次伸長のおそれなくなる9月上旬～中旬を目安に行う。秋季剪定は、10月に行うと冬季剪定に近くなり効果が現れにくい。逆に、早すぎると二次伸長を招いてしまうため注意する。

〈実際の作業手順〉

- ◆主枝A・B、垂主枝C、側枝Dの吊り上げ
下垂した各枝に支柱を立てて持ち上げる。主枝Aは竹aを添えて荒縄で固定し湾曲を直す。
- ◆側枝の間引き
側枝アは混み合ってきたため間引く。
- ◆徒長枝の剪除
主枝上の徒長枝1～10と垂主枝・側枝上の徒長枝11～15は剪除する。ただし、枝の陽光面の日焼けを防ぐため、20cm程度残して剪除する。



ポジティブリスト制度に伴い、農薬の適正使用
とともに隣接園への農薬飛散防止には万全を期して下さい！